

— はばたけ凌雲の志 —



県議会レポート
第9号
発行

なつの元志後援会
射水市北野1558-14
TEL (0766) 52-6316

FAX (0766) 52-6317

発行責任者
菅野 清人

平成18年6月15日

《<http://www.motoshi-n.jp/>》

夢の実現に向かって、
いよいよシフトアップ！



10年後の射水市を
切り拓いていけるのは、
なつの元志、私だけです。

平成15年4月、皆さま方のご支援をいただき、富山県議会議員に当選させていただいて早3年が経ちました。この間、市町村合併や少子化に伴う人口減少時代の到来など、社会は大きく変化しました。こうした流れは、今後も引き続き、私たちの暮らしに大きな変化をもたらすことが予想されます。10年後の地域社会、私たちの射水市はどのようなようになっていくのでしょうか。今後、どのような街を創造していくべきなのでしょう。ここに私の意見を述べさせていただきます。皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。

なつこの宣言①

教育の原点は家庭にあり

いつの時代も、まちづくりの根幹は人づくりです。人づくりといえは、まず教育問題があげられますが、教育に関しては学校ばかりがクローズアップされがちです。しかし、そもそも教育の原点は家庭教育にあります。子どもたちの生活の基本となる家庭、そして、その家庭の集合体である地域が一緒になって、子どもたちが安心して、将来の夢に向かって邁進できる環境を創っていかねばなりません。

地域コミュニティが必要

そのためには、地域コミュニティの充実が不可欠です。地域には、これまでもコミュニティを形成していく上で、重要な役割を担ってきたものがあります。例えば各町内で行われている獅子舞やイベント、地域清

人を育てる

子どもたちを育てるのは、地域です。

掃といったボランティア活動などですが、こうした地域の活動を守り、発展させながら、子どもたちが積極的に参加、協力できる仕組みを作っていくことで、地域とのつながり、各家庭同士のつながり、世代を越えた大人と子どものつながりを、より強く、より深いものへとしていくことができると思います。

教育の場はいたるところに

こうした土壌をベースとした上で、家庭・地域・学校が一体となって、子どもたちが主役になれる教育環境を創っていかねばなりません。地域を愛し、人を思いやる心をもって仕事や子育て、ボランティア活動などに積極的に取り組んでいく。そんな若者たちを育てていくことが新しい時代を創っていくための原動力になると私は考えています。

射水市の人口推移

		平成15年	平成16年	平成17年
人口及び世帯数	人口	94,232	94,240	94,106
	世帯数	29,604	30,063	30,104
	資料及び期日	(人口移動調査：12/31)	(人口移動調査：12/31)	(国勢調査速報値：10/1)
自然動態	出生数	882	827	785
	死亡数	828	914	817
	増減計	54	△87	△32

富山県の人口推移

		平成15年	平成16年	平成17年
人口及び世帯数	人口	1,116,926	1,116,306	1,114,692
	世帯数	368,833	372,868	376,856
	資料及び期日	(人口移動調査：10/1)	(人口移動調査：10/1)	(人口移動調査：10/1)
自然動態	出生数	9,543	9,566	9,150
	死亡数	10,445	10,426	10,766
	増減計	△902	△860	△1,616

夏野元志活動の歩み



H16.9.23 第2回ゴルフ大会



H15.9.8 富聖会
(橋本聖子先生と)



H15.6初議会



なつの宣言2

新幹線がまちを変える

近い将来となった北陸新幹線の開業によって、地域は目に見えて大きく変わります。人の流れ、物の流れが活発になり、いたるところで活気が満ち溢れている将来像を私は思い描きます。そして、その実現に向けて走り続けていきます。

また来たくなるまちに

まず、必要な社会資本整備はもちろん推進していかなければなりません。しかし、ハード面の整備だけでは、見栄えは良くなっても中身が伴いません。やはり、一度でも訪れた方に、「楽しかったね」「また、来たいね」と言っていただけのようなまちづくりをしていくには、ソフト面も充実も欠かせないのです。

近隣市町村と連携した観光対策

例えば、県内各地の祭りやイベントの開催時期をそれぞれ調整し、一年を通じて祭りやイベントを楽しめるようにすれば、観光客も大勢訪れるようになります。

また、Jリーグのチームやプロ野球チームが富山県内にもできれば、

まちを育てる ハード整備に負けないソフト充実を。

ファンが常に観戦に訪れ、まちも大いに賑わいます。「そんな夢みたいなこと…」と言われるかもしれませんが、しかし、10年後の射水市の未来を切り開くには、夢を夢で終わらせるわけにはいかないのです。



H18.5 ボーリング大会



H17.11.13
自民党三部局合同研修会



H17.11.1~2
自民党青年部 北海道視察



H16.8 全国県議会野球大会

なつの宣言3

行政の力はもう、限界

これからの社会は、これまでのように行政があの手、この手を差し伸べてくれた社会から、住民と行政が協力し合ってまちをつくっていく社会へと変わっていかなくてはなりません。

人口減少社会を迎え、右肩上がりの時代に作り上げた「負の遺産」を清算しつつ、持続可能な社会を作り上げていくためには、行政だけの力では、もはや限界が見え始めているからです。

このまちに住んでいる

という誇り

今こそ、住民の力とアイデアと「自分たちのまちは自分たちで作っていく」という意識改革が必要です。例えば、まちづくりにおいて、環境だけは綺麗に整備されていても地域住民が無関心なままと、いたるところで「よう来られたね。また、来られ」と声を掛けていただけると、観光客はどちらのまちに行きたいと思ってしまうか。

このような事例一つをとってみても、我々住民一人ひとりが意識改革を行い、積極的に行政とタイアップしていく取り組みが必要なのです。

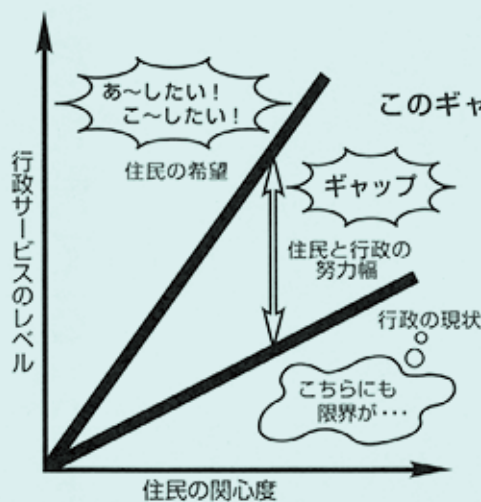
協働社会を実現

自立したまちを創っていきます。

住民の声が地域を・国を動かす

自分たちの力とアイデアでつくり、育てていくまち。こうした意識改革はすなわち、今後の行政が再び過ちを犯すことがないように、監視することにも繋がります。そして、この意識をさらに広げ、浸透させていくことで、我々住民の声から、県や市町村を動かし、国を動かすという仕組みを作り上げていかなければなら

行政と住民の
お互いの「協働」で
住みよいまちを
つくりましょう。



りません。

そうすれば、昨今の市町村合併を経て、将来導入されるといわれている道州制といった、さらなる激動の時代の中でも、この地域は、老若男女すべての人の笑顔の絶えない地域として生き残っていくことができるでしょう。



夏野元志さんの飛躍を願う



吉田 力

なつの元志後援会
大島支部長

夏野元志さんが弱冠30歳にして県議会議員初当選を果たした先の選挙から早3年余の月日が流れました。この間、県内では35あった市町村が合併によって15となり、私たちが住む地域も射水市となって新たなスタートを切りました。

さて、私は本年3月、当後援会大島支部総会において新支部長として役員諸侯と共に選任を受けました。元志さんは中学、高校、大学まで同じ学び舎で学んだ者として、より一層の親しみを感じると共に、今回の任務の責任の重さを痛感しています。

元志さんには、この4年間の議員活動で経験した様々な出来事、大勢の人との出会いを通して醸成した地域に対する熱い想い、未来への大きな夢を胸に、一段と大成され、射水市と富山県の発展のために飛躍されることを心から願う次第であります。

当後援会大島支部では、来るべき日に向け、怠りない体制づくりを進めていきたいと考えております。支部役員、会員の皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。